◎向日市民憲章◎
1　住みよいまちを力を合わせつくりましょう
1　きれいな緑と水と空を守りましょう
1　働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
1　すぐれた教育と文化を育てましょう
1　明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

広報 向日市

No.432
昭和63年7月15日

◎発行　向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集　秘書広報課　◎電話　075（931）1111

市民の善意で育つ献血

■7月は愛の献血助け合い運動月間■

献血の日程表

7月20日(水)	終日	市役所
8月20日(土)	午前	寺戸コミセン
	午後	第2回生病院
11月21日(土)	終日	寺戸公民館
10月22日(土)	午前	上植野公民館
	午後	鶏冠井公民館
11月19日(土)	終日	向日市まつり会場
11月21日(月)	午前	森本公民館
	午後	物集女公民館
12月20日(火)	終日	寺戸公民館
1月20日(金)	終日	保健所
2月20日(月)	終日	市役所
3月18日(土)	終日	寺戸公民館

献血は安全　若い人に期待

最近、献血ばなれが叫ばれていますが、向日市でも昨年度は献血率が低下しました。エイズや肝炎に感染するという誤解が多いようですが、献血は安全です。皆さんのご協力をお願いします。

向日市献血推進実行委員会では、昭和47年から市民の皆さんの健康を守るため積極的に献血運動に取り組んできました。

その結果、献血に対する理解も深まり、実績は着実に伸びて来ました。

しかし、医療技術の急速な進歩は、ますます多くの血液を必要としており、献血の重要性は更に高くなってきています。

ところが一方で、ここ2～3年全国的に献血協力者が減少し向日市でも受血共済制度の廃止された昭和60年度に落ち込んでから、伸び悩みの傾向にあります。

日本赤十字社のまとめた献血に関するアンケート調査によりますと「献血でエイズ（後天性免疫不全症候群）や肝炎に感染するから」とか「1回の献血量が200㎖から400㎖と倍増したと聞いたから」とかといった誤解や理解不足によることが献血の低下の原因になっている場合が多いことが分かりました。

また、同じく日赤による全国集計では昭和62年度献血者数が前年度より53万人（6・2%）も落ち込んでいます。内訳を年代別に見てみますと、10歳代が前年度比12・3%減、20歳代7・5%減、30歳代7・8%減に対し、40歳以上は逆に1・2%の増であり、若い世代での減少が目立っています。

向日市でも、献血者数は昭和61年度の18110人から62年度は15444人に減少しています。400㎖の採血者については変化はありませんが、大半を占める200㎖の採血者が258人減少しており、同時に初めて献血を体験する初回献血者数も521人から404人へと大幅な減少を示しています。単純に比較はできませんが、200㎖の採血のみを行っていた59年度の最高時と比べると献血量にして13・7%の減少となり、かなり厳しい状況であると言わざるを得ません。

向日市献血推進実行委員会では、①献具で使用する採血針などの器具は、1回使用するごとに廃棄処分にしているのでエイズや肝炎に感染することは絶対に無い②400㎖の採血は希望者のみに行われるもので全員から採血するものでは無い等、献血が安全なものであると共に、コレステロールなど血液検査が行われ、定期的な献血参加が健康管理に役立つなど訴えています。

また、毎月20日を献血デーと定め、市内のどこかで献血運動を展開していますので献血の経験のある方はもとより、初めて参加される方や若い方が一人でも多く献血をされるようお願いします。献血は市民の皆さんの善意で育っていくものです。

献血の多い方

向日市献血推進実行委員会総会で、献血に功労のあった方に表彰状が贈呈されました。

献血回数50回を数える方が4名、40回2名、30回8名、20回20名、10回40名で30回以上の皆さんは次の方です。

■50回■　片山八十和、鈴木重利、西出虹郎、能登谷龍蔵

■40回■　肇坂初子、南久義、

■30回■　建口洋子、中村勇、宮下春夫、山本トミ子、藤田和男、今井雍浩、北村照夫、藤田太美雄

一言　50回献血の　西出虹郎さん

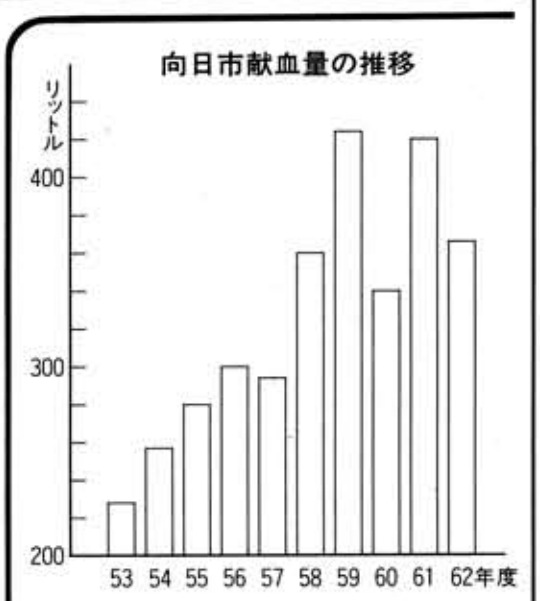
私の献血のきっかけは、20年程前に家族の者に血液が必要になったことにはじまります。

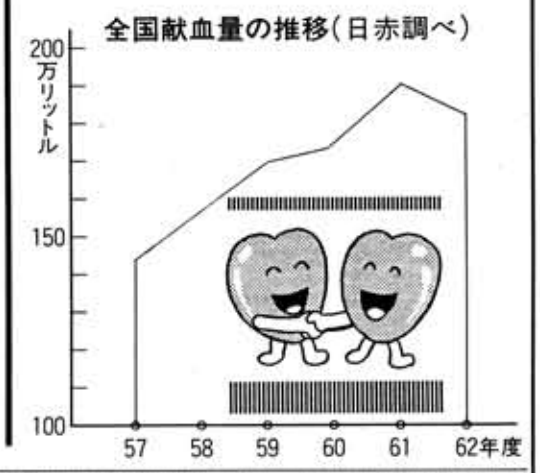
世間のみなさんにお世話になったことへの感謝の気持から、私もお返しをしなければと思い現在まで続けています。

年間に3～4回の割合で参加していますが、お医者さんが現場におられて、安心ですし、自分の健康管理と考えています。血液検査の結果が返ってきますので大変参考になります。

献血は安全なものですので、元気な若い方が一人でも多く参加してくださったらなあと思っています。

表彰を受ける献血功労者





国体協力員への委嘱状交付

国体開催100日前事業

京都国体まであと100日となった7月7日、市民会館で国体に協力される市民の方に委嘱状が交付されました。

この日に委嘱を受けた方は、総数750名で、国体協力婦人連絡会をはじめとする11団体の代表に、国体実行委員会々長民秋市長から直接委嘱状が手渡されました。

その後民秋市長は、リハーサル国体についての謝辞を述べるとともに「本番での成否は市民一人ひとりの協力にカギがある」とあいさつ。

最後に海邦国体の記録映画を全員で鑑賞しました。

成功させよう
第24回
全国身体障害者スポーツ大会

全国身体障害者スポーツ大会とは……

この大会は、全国から集まった選手が単に技をきそうだけでなく、スポーツを通じて、機能の回復と体力の維持増強を図り、自らの障害を克服して希望と勇気を持って、たくましく生きていく意欲を培うとともに障害者福祉に対する社会の理解と認識を深めることを目的としています。

昭和63年10月29日・30日
主会場
京都市西京極総合運動公園陸上競技場

あたたかく迎えよう
～ボランティア募集～

向日市社会福祉協議会では、左記の大会において参加者の介助や運営補助をしていただけるボランティアを募集しています。

期間は、10月27日(木)から30日(日)までの4日間で、1日だけでも結構です。

全国各地から来られる選手、役員の皆さんとともに京都大会を実りの多い素晴らしい大会にしてみませんか。

■申し込み・お問い合わせ■　社会福祉法人
向日市社会福祉協議会　932－1960